

# 出前講座 報告書

開催日時	令和6年2月29日(木) 午後2時50分 ~ 午後4時35分		
開催場所	上野商工会議所会頭室		
申請団体等名称	上野商工会議所		
テーマ	「伊賀市の適正な土地利用に関する条例」について		
委員会名等	産業建設常任委員会		
出席議員	赤堀 久実(委員長)、濱瀬 達雄、川上 善幸、宮崎 栄樹、山下 典子、		
	中岡 久徳、増田 雄	記録者	増田 雄

【講座・意見交換等の主な内容・対応等】 (→:出席議員の意見)

- ・新型コロナが一段落して、工場の稼働率は高い。商業はほとんどダメ。
- ・観光はどの程度発展できるか。
- ・三重県の製品受注出荷高10兆円のうち、伊賀地域が1兆円少いで、うち8千億円が伊賀市。
- ・ゆめが丘は、研究開発型の企業立地であったが、残しているのは数社。
- ・伊賀市の固定資産税80億円のうち、ゆめが丘で20億円。
- ・企業誘致に相応しいまちにしないといけない。
- ・伊賀市は、関西圏の企業から魅力があり、候補地の一つである。
- ・根底にある商業があつて、文化が発展してきた。
- ・開発する土地、用地がなく困っている。伊賀市で適地が見つからず他所へ行く例も数件あつた。
- ・企業は待っていない。少なくとも5社は逃げた。雇用も税収も下がる。
- ・ゆめが丘も25年が経ち、良い土地が出てこなかったら、伊賀の工場を閉めて他所へ出て行く。  
→伊賀市は観光都市のイメージがすり込まれている。観光も大事で、足す分には良い。
- ・工業適地を増やしてほしい。柔軟性を持って。  
→地域計画。農地も大事だが、ハードルを下げないといけない。  
→インフラ整備。水道や排水。
- ・農業排水が絡むとややこしくなる。
- ・ハードルを下げて、このエリアであれば自動承認であるとか。
- ・就労の場ができるというプラスの面もかなりある。  
→文化では飯は食えない。

(様式第2号)

- ・進出が非常に困難と言ったら、1社で終わらない。その話は、その業界全部に広がる。
- ・伊賀のポテンシャルを知らないうちに落としている。
- ・伊賀市は水に関しては、競争力がない。工業の中水がなく、上水を使わざるを得ない。
  - 地下水は公水と言っている。上水は一定の値段がする。地下水の掘れる所へ行ってしまう。
  - 矛盾が入り組んでいる。中心市街地は合併処理浄化槽の整備が進まず垂れ流し。
- ・各ジャンルの専門家の言うことがバラバラで、それに振り回されている。
  - 東大阪で立ち退きになった企業も、何社か来てくれている。
  - ハードルを下げよと行政に言っている。名阪国道のインターチェンジから1kmを2kmに緩和するとか。
  - 地域計画を早くやるよう行政に言っている。
- ・産業構造が変わる過渡期である。零細企業は後継者がなく、ある程度スケールメリットが必要。
- ・新しい農業の人は、地元と連携しているかと言えば、そうではない。
- ・観光は、伊賀市の目指しているのはハイクラスの人に来てもらうこと。
- ・中国の団体は来ているなという雰囲気。
  - 農業は、74~75歳などが主流。農地がもう荒廃するかわからない地域がある。
- ・手続きの迅速化。6か月後に回答があっても、企業は来ない。
- ・空き家は認めて、建てたらあかんと言えば、減っていくに決まっている。
- ・市として、持続可能な市の方向性が見えない。
- ・進出したい企業の伊賀市への雰囲気を知りたいが、3年前に終わっていて、進出の声もない。
  - 制約やハードルになるところは？
- ・土地が隣接していても、隙間があれば難しい。
- ・甲賀市と比べたら、いちばんよくわかる。
  - 土地区画整理事業で、甲賀は公も入る。
- ・排水路で、農業水利組合がイエスと言わないと進まない。
- ・漁業組合から金を出せと、ゆめが丘の工場に言ってきた。
- ・工業団地で100%埋まるところは非常に少なかった。
- ・人口の集積企業を持ってきたら、人口も増える。
- ・座して死を待つ。今の行政は、うどん屋のように待ち営業。
- ・市の都市マスタープランは建設部局でやっているのだから、産業振興の考えがほぼない。
- ・住みよいまちと言って、やれるだけのポテンシャルはない。

(様式第2号)

- ・上野公園のトイレを早く綺麗にしたらと言うと、文化庁の管轄でとなる。
- ・公園からの地下道は、露出狂の通報があったり、ゴキブリの巣のような感じである。
- ・就労人口を考えると、名張市から8,000人ほど伊賀市に来ている。
- ・購買力をつける意味で、一般の民間の人の所得を上げていかないといけない。
- ・給料は、生産性を上げる、もっと良い仕事をしてもらうための投資。
- ・行政が検証して、効果を発揮できる政策を。相変わらず若者が流出してますでは、アウト。
- ・職場があれば、帰ってくる。その前の魅力も必要で、いちばんはインフラ。
- ・伊賀線をノンストップで10分で走らせてくれば良い。  
→この前の議会と若い子たちのタウンミーティングでも、働く場所と公共交通が課題であった。
- ・他所の物まねで、コンサルがやっても仕方ない。
- ・企業誘致は、マッチング。結婚と一緒に非常に難しい。
- ・地域振興整備公団などが保証すると、企業は動く。
- ・地域振興整備公団へ出向していた市職員もいなくなっていく、ノウハウがなくなる。  
→上野市だけが成功した。
- ・下地があるのに、種地がなくて、15～20年無駄にした。  
→同意行政のハードルを下げるとだいぶ早い、なかなか難しい。
- ・企業誘致を建設部局だけでなく、産業振興部とペアリングしないと情報の共有化がされない。
- ・このままでは、とにかくジリ貧です。  
→データセンターが進めば、日本中の人の見る目も違ってくる。
- ・土地は流動性がないとダメ。それを止めているのが土地利用条例である。

【まとめ】

伊賀市の工業の振興を考えると、「伊賀市の適正な土地利用に関する条例」の必要な緩和や、地域計画を立てるなど、伊賀市の土地利用に関して行政として関わる事柄が多く、常任委員会として所管事務調査という形で取り組むことが望ましいと考える。

伊賀市議会議長 様

令和6年3月25日

議会出前講座実施要綱第11条第1項の規定により提出します。

産業建設常任委員長 赤堀 久実